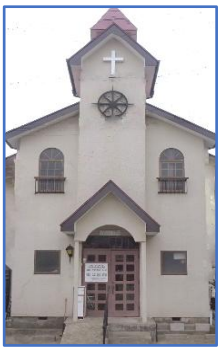
第　69　号

2026（令和8）年10月31日



教会だより
ミルトス

ミルトスは、水がなくても育つ強い木であることから不死のイメージがあり、祝福と繁栄の象徴の木と言われている。

日本バプテスト教会連合
八千代キリスト教会
牧師　小林政和
八千代市大和田新田 94-77
Tel:047-450-1536・Fax:047-473-3925
E メール：gpnng725@gmail.com
URL/https://yachiyokyokai.org
郵便振替：00190-4-554373

今年のみ言葉　ローマ人への手紙 8 章 34 節

「だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。」

どなたでも　ご自由にお入り下さい。 お待ちしております。
日曜日・午前10時30分・礼拝
水曜日・午後1時30分・祈祷会

「天国に市民権を持つ者」　　牧師　小林　政和



10月7日（水）の祈祷会に、カナダからマス小林先生をお招きして「特別伝道集会」を開くことができました。上福岡教会から応援に駆けつけて下さった方々と、総勢11人の伝道集会でした。伝道集会で思うことは、未信者の方をお連れして、伝道者の説教の中で、彼らのうちに罪の悔い改めが起こり、キリスト者になってもらうと言う尊い働きを考えていました。そのためには、一人一人が「伝道者」になって、自分が救われたように、友人知人が救われて、天国に一緒に行けるよう、その方のために必死に祈る。そのような理想的な姿がなかったとしても、「伝道集会」と言う銘打って行われ、招待した人がたとえ来られなかったとしても、天において覚えられており、次回は来てくれるかもしれない。宣教は前進する潜在的エネルギーが蓄えられているのです。ハレルヤ

私たちは天国に市民権を持つ者です。永遠の命を持つ者で聖霊様が内住しています。私たちはこの地上に生きていますが、同時に天国にも市民権があり、死後に行く場所が確保されているということです。天国において、大きな礼拝堂もあるでしょうが、私たち個人が居られる部屋も用意されています（主が、私たちの居場所を用意しに行かれました）。私たちはキリスト者です。地上にいるときは、キリストから命と、知恵と、力を頂きます。私たちはこの地上にいながら主と共に歩む生活は、天国で生活するようなものでしょう。ハレルヤ

私たちがこの世の勤めが終わった時、魂は天国に行きます。魂は復活の体を頂けると書かれています（Ⅰコリント15・42－54）。どんな体かは推測もできませんが、地上での風貌・容姿が残っているのでしょうか。家族や知人に再会するときに、見てその人と認識できるというのですから。神の国の入口にイエス様が両手を広げて待っていらっしゃるでしょう。私たちはその愛する方に向かって「イエス様！」と叫びながら、イエスの御腕に飛び込みます。イエスの腕に飛び込んだところ、気が付けばそこは天国でした。天国にいることに気づき、大いに喜びます。 神は一人でも多くの方が救われることを願って、最後の日、再臨の日を遅くして、主は待っていてくださるのです。ハレルヤ

10月18日（日） 聖餐式

小林牧師の導きにより聖餐式が行われました。主の血であるブドウ液、肉であるパンを頂きました。



教会の花壇 ： 駐車場の花壇には、季節ごとの花を植えています。朝顔の花が真っ盛りです。手入れもせずに植えっぱなしですが元気です。



（9月13日撮影）下橋

10月7日（水） 特別伝道集会13:30～

マス小林（小林正則）師を迎えての特別伝道集会が行われました。

師は1971年にカナダに渡られ、現在アルバータ州に在住です。

毎年宣教のため来日、この日に八千代キリスト教会に出席、メッセージを頂きました。上福岡バプテスト教会の方も参加してくれました。祝福された集会になったことを感謝します。（下橋）







特別寄稿

「30周年記念礼拝に参加させて頂いて」　上福岡バプテスト教会　ヴィリアフロア　恵



長い間祈り、一度は伺いたいと思っていた八千代教会の30周年記念礼拝に参加することができました。住宅内に突如現れる教会は下を向いて歩いていては、気づくことが難しいのですが、ふと天を見上げると、なんと素晴らしい教会が現れた事でしょう。会堂に入る前から神様の臨在を感じ、神様の聖名を賛美しました。

礼拝が賛美で始まった瞬間、私の心は踊り、体が震えました。今までに聞いたことがない「この日は主が造られた」の賛美でした。今までに何度も聞いているこの賛美が、想像を超えて私に迫ってきたのです。ピアノ伴奏がまさかのジャズ。その心地よい伴奏にリードされ、力強く会堂に賛美が響いていました。私は一気に神様に招かれたコンサートのようなこの空間に身を置かせて頂いたのです。その後も礼拝の中で行われた牧師夫人の紙芝居の時には一瞬で子供時代に戻り、耳を傾けていました。小林牧師先生の忠実に聖書から語られたメッセージに励まされ、神様の臨在を感じながら礼拝することが出来たのは、何よりも感謝な事でした。感謝会ではどのようにこの教会に導かれたか、また教会の思い出などが語られ、どの証の中にも神様が働き導いて下さった事を感じました。千葉県に置かれているこの場所に、集われている半分の方々が関西出身という状況に、神様が必要な方々を集めて下さったのだと思います。これからも神様がこの教会を豊かに用いて下さいますように祈ります。

教会及び運合のスケジュール（予定）

9月20日（日）　創立30周年記念礼拝
10月07日（水）マス小林先生を迎えての特別集会
10月18日（日）聖餐式
11月02（月）－03日（火）連合予算総会（掛川）
11月08日（日）召天者合同記念礼拝
11月26日（木）横田早紀江さんを囲む拡大祈祷会（OCC）
11月29日（日）アドベント（待降節）12月24日まで
12月20日（日）クリスマス特別礼拝、午後祝会
12月24日（木）クリスマスイブ礼拝

祈って下さい

1）床上浸水した真砂教会の礼拝場の確保と教会の回復のために
2）ネパール土石流で被災された家族のために。リ・チャン師の働きのために
3）若林一郎兄は歩けなくなり、夫婦の施設とは別に入院中です。
4）三郷教会の大澤美保夫人の、抗がん剤治療が副作用なく用いられますように
5）上福岡教会において、よい時に良い牧師が与えられますように
6）成田の施設にいる安藤真大兄の歩行機能が、回復するように
7）高齢者ホームにいる八木明子姉の健康と、信仰のために
8）求道者の池田英穂兄、奥田順一兄が救われますように

3分間講座　　**やすらぎの讃美歌 312 番 「いつくしみ深き」**

この歌は、結婚式といっためでたい事や悲しみ事の際に歌われ、クリスチャン以外の方々にも広く知られています。作詞者のジョセフ・スクライヴェンは、自身25歳の結婚直前に婚約者が溺死、苦しみのあと信仰に根差した新しい生き方を求めてアイルランドからカナダへ移住。そこで教師生活をしていたとき巡り合った女性との結婚が決まったものの、今度はそのお相手が重い病で亡くなってしまうのです。愛する人を2度まで失なう悲しみの中でしたが、彼は決して希望を捨てることはなかったのです。なぜなら、まず自分の心に中にある神と一体になることで、人の支えが消えても、最後まで友として支えてくれるのはイエス・キリストだけという考えが芽生えていたからです。それ以降の彼のライフスタイルは、社会の底辺で暮らす人々のための無償の奉仕活動へと変わります。また悲しみの体験の中で、憐れみと慰めを与えてくれたイエス・キリストへの信頼を大切にしたいとの想いから、故郷のアイルランドで病に伏す母親を励ます手紙を送り、そこに自分で作った一篇の詩(Pray Without Ceasing ： 絶えず祈りなさい)を添えました。

何年かののち、ある詩集の中にこの詩を見つけ、魅せられた米国人の弁護士で作曲家のチャールス・コンバースが、1868年の自作「Erie　エリー」の旋律をこの詩にかぶせ、名曲「慈しみ深き」(原題：What a friend we have in Jesus)が生まれます。この曲の魅力は、メロディーがシンプルで覚えやすいこと、同時に詩の中に、心の悩みをひとりで抱え込まず、祈りの中ですべてを打ち明けなさい。イエスは変わらぬ愛で慰めてくださるから、という節があるからでしょうか。スクライヴェンは無名の人でしたが、天に用いられ、66歳で亡くなるまで、半生をもっぱら奉仕活動に身を捧げました。（池田）



作詞者 J. スクライヴェン

編集後記：9月20日（日）当教会は、無事創立30周年記念の行事を済ませました。皆様のお力添えと、神さまのお導きによるものと、感謝しております。ホッとしている間に10月も終わります。クリスマスまではもうすぐです。祝会に向けての準備を始めています。歌あり、証しあり、寸劇あり、いろいろ予定を立てています。もうすでに待ち遠しい気分です。（下橋）